

### 第3回 湯沢市ゼロカーボン推進計画策定市民会議

#### 議事録

開催日時	令和5年11月13日（月）14:00～
開催場所	湯沢市役所本庁舎 4階会議室 43
出席者	<p>委員：古林敬頭（秋田大学 大学院理工学研究科 准教授・市民会議会長）          佐藤充（秋田県地球温暖化防止活動センター センター長・市民会議副会長）          佐々木明子（湯沢商工会議所 議員）          佐藤恭子（ゆざわ小町商工会 商業部会 副部長）          高嶋江美子（雄勝野づくり推進協議会 副会長）          菅善徳（湯沢市まちづくりコーディネーター）</p> <p>オブザーバー：桜庭佑己（秋田県 生活環境部 温暖化対策課）</p> <p>事務局：湯沢市          市民生活部長 高橋、環境共生課長 阿部          環境共生課環境対策班 樋渡、阿部、川村          ランドブレイン（株）鈴木（会場参加）、          黒川、宮本（Web参加）</p> <p>※欠席委員：佐藤達也（湯沢青年会議所 事務局次長）</p>
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 会長あいさつ</li> <li>3. 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 湯沢市ゼロカーボン推進計画（素案）について</li> <li>(2) 提言書の構成イメージについて</li> </ol> </li> <li>4. 意見交換              話題提供 → フリートーク</li> <li>5. その他</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・委員名簿</li> <li>・資料1～3（議事（1）に関する資料）</li> <li>・資料4（議事（2）に関する資料）</li> <li>・「ゆざわゼロカーボンピッチ」告知チラシ</li> </ul>

議事内容	
<b>3. 議事</b>	<b>(1)湯沢市ゼロカーボン推進計画(素案)について 事務局より資料1～3を用いて説明</b>
会長	資料1のP20内の排出量を示した図について、基準年の2013年は、純排出量となっている。2030年だけ森林吸収量を考慮して記載しているのが気になる。
オブザーバー	秋田県の地球温暖化対策の担当になった際に、同じく気になった部分である。ネットグロス方式（温室効果ガスの排出量を算定する際に、基準年には排出量のみをカウントし、目標年には排出量から森林などによる二酸化炭素の吸収分を差し引く計算方法）と呼ばれる考えであり、国に準じて県の計画でもこの方式を取り入れている。森林吸収量は、経年的な増減も大きいため、経年変化を追っていくことが重要だと考えている。
会長	ネットグロス方式が、問題だというわけではなく、むしろ国の基準に従い、そのようにしていくべきだと思う。しかし、一点気になるのが、森林吸収量とするだけの森林自

	体の面積をその分増やしていくということで良いか。
事務局	2030年の森林吸収量は145千t-CO2だが、経年的には少し減っている状況にある。
会長	森林吸収量は増減するが、森林の中の炭素成分が増えているという想定になるのか。木自体が大きくなるため、森林における炭素成分の蓄積量が増えているということなのか。
オブザーバー	森林吸収量については、森林の伐採、植樹等の手入れのサイクルは考慮していない。人為的にサイクルを早めていくという施策を考えている。
会長	資料1のP36について、KPIとして「ペレットストーブ等を保有している市民の割合」を2倍にするという目標にしているが、湯沢市内にペレットストーブを作る事業者はいるのか。
事務局	湯沢市の木を使っている製造事業者は近隣自治体にはいる。
会長	同じく、地域産材使用料の単位は立米ではないか。また、指摘ではなくコメントになってしまうがエネルギー収支は、平成30(2018)年時点の数値だが、現時点でかなり悪化している可能性があるため、注釈を付け加えた方が良い。
副会長	資料1のP24について、4点ほど指摘がある。 1点目は、具体的な取組の表において、文末が「検討を進める」という表現が多いが、検討した後に何をするのかという部分を触れた方が良い。検討は目標ではない。 2点目は、豪雪地帯、畜産バイオマス、小水力、豪雪地帯のエネルギー導入可能性について、先送りになってしまうと思われるので、中期から取り組むべきではないか。 3点目は、再生可能エネルギーの利用拡大スキームがあるが、既に湯沢市内には、電力小売事業者として設立もされている。スキームの体制を果たすべき人材もいるため、湯沢市で既存の事業者等にアプローチをして、話も進めて行ってほしい。プロセスも含めて、実施時期を再確認してほしい。 4点目は、具体的な取組の表の下から2番目にある情報提供については、中期ではなく短期で良いのではないか。
事務局	書きぶりや表現方法について、再検討をする。
会長	豪雪地帯の新たなエネルギーの可能性については、夏場の冷氣として使用できるように、冬期間の雪を貯めておくなど、雪が使えるようにするなども方法として考えられる。
オブザーバー	意見ではないが、秋田県の担当課内で内容共有した際の感想をお伝えする。とても見やすく、他の自治体にも広めてほしいという感想がでた。 「削減目標60%減」という部分について、湯沢市の庁内会議や議会で説明した結果、反応はどうだったかお伺いしたい。
事務局	「削減目標60%減」について指摘はなかったが、湯沢市単位で考えると物理的には「既にゼロカーボン達成できるのではないか。」という指摘もあった。
オブザーバー	秋田県でも、十分すぎるほど、再生可能エネルギーに貢献していると議会でも良く言われる。
会長	だからこそ、もっと推進していかないといけない。進んでいるときに、もっと進めないと2050年のゼロカーボン達成は難しい。

	(2) 提言書の構成イメージについて 事務局より資料4を用いて説明
会長	大変細かくて恐縮だが、「提言3 ごみの減量化」だけ体言止めになっている。
事務局	他の提言に揃えるように、修正する。

<b>5. 意見 交換</b>	<b>オブザーバー桜庭氏より話題提供 「エネルギー消費と省エネの推進について」</b>
事務局	エレベーターの利用を控えて省エネを推進しようという行動変容を促すアイデアのご紹介などがありました。みなさんいかがでしたでしょうか。
会長	例えば、階段は上る時と下りる時では、身体への影響が違う。上りは心肺機能、下りは足腰が重要。上りと下りで効果紹介を分けてみるのもありかもしれない。
委員	日々の生活の中で、年を重ねると2階ではなく1階で生活することも多くなり、足腰や鍛え方が弱くなっている気がする。
事務局	近年は、家の中もバリアフリーで歩く安くなっているおり、ちょっとした段差や物が遠いなど、あえて不便にしていくことも重要な気がする。
オブザーバー	食品ロスについて、三種町での話をしたい。婦人会の出前講座で、食品ロス削減のアイデアを色々考えて、お料理教室を開いた。皮や葉っぱまで使うということもあげられたが、料理の腕をあげることで美味しくなり、残さなくなるという少し違った視点の意見もあった。
会長	食品ロス削減については、料理中の皮や葉っぱなどのロスを少なくするのか、作った料理の食べ残しを減らすのかでも違う。
委員	一般に食品ロスというと、食べ残しを減らすことだと思っている。最近、さまざまなスーパーで、賞味期限に応じて割引きをしている。何時頃になると、どこそこのスーパーが割引きを始めるという理由で、時間帯に合わせて行くスーパーを変えるなど、消費者も賢くなっている。食品ロス自体は、減少しているのかなと思うが、食品ロス削減につながるアプリは面白いと思った。
委員	家庭の中でも、例えば煮物などは、量を少し煮ても美味しくないので思ったりして、多く煮てしまう。あとは、このごろは食に対してのわがままが増えたように思える。最後まで家庭の中でも捨てないで食べる。そういう生活をしていくべきではないか。
会長	子どもに料理をさせてみて、作ることの大変さや減らすことが良くないことだとわかってもらうということも大切。大阪だったと思うが、ビルのレストラン街の食品ロス部分を地下に流して発酵させて、電力として使用している例もある。残ったものを無駄にしてないと思う一方で、ビル1棟でこれだけの食品廃棄物を出しているのかと驚いた。
委員	ナッジは、うまくできている。ナッジで括ると、当たり前と言えれば当たり前だが、改めてみるとすごい。
会長	日本人は右に倣えというところがあるが、そのような性質を使いたい。
委員	家庭、食品ロス、家庭のごみ減量など、自分たちに何ができるのかと考えたときに、生ごみの水を切って、畑で使うようにしたところ、ごみの量が減った。出すごみが減った分、軽くなるなど、家庭でできることを実感した。そういったやり方などを広報で出してみると、取り組む人が増えるかもしれない。

オブザーバー	秋田県は、一人当たりのごみ排出量が全国平均より高い。家庭菜園をして野菜を購入しない人が他と比べて多いから売れ残るなど、文化的な側面があると思われるが、下げ止まっている状況にある。このごみ排出量については、もえるごみベースである。
会長	秋田県以外は、分別を進めて減ったということなのか。
オブザーバー	そのような背景もある。例えば、秋田市のごみの分別は緩い。プラスチックという分類がないため、ペットボトルの包装紙なども燃えるゴミ。
事務局	人口減少は原因としてないのだろうか。人口が減っているが、これまでと同じ量の生産では余ってしまう。
委員	少し逸れた話になるが、電気量を安くできないかという話を第 1 回の市民会議の場で話したが、少し考え方を变えて、地熱発電所等から入ってくる法人税を資金として、電気代の軽減のための財源とすることはできないのか。
事務局	地熱発電は、施設も大きく税収入も大きい。国の交付金も大きく、どう使うのかは自治体次第だが、やることはできるかもしれない。
会長	湯沢市の卒 FIT になるのはいつ頃か。
事務局	山葵沢は令和 15 年で終わる。上の岳は FIT 制度の創設前から発電しているため卒 FIT ではない。
会長	他地域からも同じことを考えている可能性もあるため、卒 FIT 後の取り組みは早めに行った方がいい。
委員	秋ノ宮で、小水力については、樺山水力発電があり、小水力をやるという話を聞いた。新たな再生可能エネルギーについて、事例が一つ出てくれば、広まっていくかもしれないため、長期ではなくもう少し早い段階の施策ではないか。 その小水力の際に聞いた話だが、湯沢市自体は水源が豊富だから、ポテンシャルがあるのではないかという話だった。検討すると書いてあるが、検討した後、どのレベルまで持っていけるのではないかなど、他地域展開もできるかもしれないのではないか。
	以上